『言語情報学研究報告』No.4（2004）

ベトナム語[1]

春日　淳
（神田外語大学講師）

1. ベトナム語の使用地域と人口

ベトナム語は，系統的にはオーストロアジア語族中のモン・クメール語族の一語派であるベト・ムオン語派に属する。主にベトナム（ベトナム社会主義共和国）で話され，他にカンボジア，ラオス，タイなどにも一定数の話し手がいる。ベトナム国内では，その人口約 7,600 万人（1999 年現在）にほぼ相当する人々が話し手である。ベトナムには公式には 54 の民族がいるが，ベトナム語はその中で，人口のおよそ 86%を占めるキン族（ベト族）の母語であり，他の民族も公用語として使用している。

参考文献

UBKHXHVM, Viện Ngôn Ngữ Học, *Ngôn ngữ các dân tộc thiểu số ở Việt Nam và chính sách ngôn ngữ*, Nhà Xuất Bản Khoa Khọc Xã Họi, Hà Nội, 1984.

2. ベトナム語の規範・方言概略

ベトナム語の標準語の発音は，北部方言の発音に基づくが，頭子音については，綴り字による読み分けが規範となり，標準語発音（綴り字発音）では，北部方言で区別されない頭子音も ch[tɕ]/tr[ʈ], x[s]/s[ʂ] , d/gi[z]/r[ʐ~r] のように対立する。

ベトナム語の方言はきわめて多様であるが，音韻と語彙に基づいて大きく 3 つの方言（地域）に分けられる。ベトナム北部からタインホア省辺りまでの北部方言，タインホア省からハイヴァン峠（トゥアティエン－フエ省とクワンナム省の境界）に至る中部方言，それより南の南部方言である。首都ハノイの方言は北部方言に含まれ，グエン朝の都フエの方言は中部方言に含まれ，ベトナム最大の都市ホーチミン市（旧サイゴン）の方言は南部方言に含まれる。方言差は音韻と語彙に現れる。声調については，北部方言では 6 つある声調が，中部と南部の方言では 6 つのうちの 2 つが 1 つになり，全部で 5 つになる。声調の調値もそれぞれの方言で異なる。頭子音については，文字の上では区別されるが発音上は北部方言では対立しない ch/tr，x/s，d/gi/r が，中部と南部の方言では対立する。母音体系もやや異なる。末子音については，北部方言ではほぼ正書法と一致するが，中部・南部の方言では正書法と異なる部分が多い。ただ，北・中・南の方言の間で一定の対応がある。３つの方言の中で標準語のもとになっているのは北部方言である。学校での標準語教育を

[1] 監修者　宇根祥夫東京外国語大学教授。

含めて，北部方言，ことにハノイ方言の音韻と語彙が，標準的なものといえるが，南部方言の一つサイゴン方言（ホーチミン市の方言）も南部地域ではきわめて優勢である。

参考文献

Hoàng Thị Châu (1989) : *Tiếng Việt Trên Miền Đất Nước*, Nhà Xuất Bản Khoa Khọc Xã Họi, Hà Nội.

3. ベトナム語の文字と発音

ベトナム語の字母は次の 29 個で，他に声調記号が 5 つあり，無記号と併せて 6 つの声調を表記する。ベトナム語の子音または母音は，字母 1 つで 1 音を表す場合と 2 つまたは 3 つで 1 音を表す場合とがある（ベトナム語（ハノイ方言）の綴り字と発音の項参照)。

3.1 ベトナム語の字母

大文字　小文字	文字の読み	大文字　小文字	文字の読み
A　a	[aː]	N　n	[ɛn]
Ă　ă	[aː]（上昇調で）	O　o	[ɔː]
Â　â	[ɤː]（上昇調で）	Ô　ô	[oː]
B　b	[ɓeː]	Ơ　ơ	[ɤː]
C　c	[seː]	P　p	[peː]
D　d	[zeː]	Q　q	[kuiː]
Đ　đ	[ɗeː]	R　r	[ɛr]
E　e	[ɛː]	S　s	[ɛs]
Ê　ê	[eː]	T　t	[teː]
G　g	[ʒeː]	U　u	[uː]
H　h	[hat]	Ư　ư	[ɯː]
I　i	[iː]	V　v	[veː]
K　k	[kaː]	X　x	[iks]
L　l	[ɛl]	Y　y	[ikrɛt]
M　m	[ɛm]		

声調記号

声調の名前	記号 （字母 a, â につけて表記）	用例
thanh ngang	a　　â	ma ‘幽霊’
thanh huyền	à　　ầ	mà　（接続詞の一種）
thanh hỏi	ả　　ẩ	mả ‘墓’
thanh ngã	ã　　ẫ	mã ‘記号’
thanh sắc	á　　ấ	má ‘頬’
thanh nặng	ạ　　ậ	mạ ‘苗’

3.2　ベトナム語（ハノイ方言）の綴り字と発音

3.2.1　母音の綴り字と発音

i(y)[i]	ư [ɯ]	u [u]
ê [e]	ơ [ɤ]　　â [ɤ̆]	ô [o]
e [ɛ]	a [a]　　ă [ă]	o [ɔ]
iê (yê) [ie̯]	ươ [ɯɤ̯]	uô [uo̯]
ia(ya) [ia̯]	ưa [ɯa̯]	ua [ua̯]

3.2.2　頭子音の綴り字と発音

注：

・頭子音の声門閉鎖音 [ʔ] を表す綴り字はない（これをもつ音節は母音字から始まる）。

・スラッシュ　/ の前後に綴り字がある項の中，ch/tr，x/s，d/gi/r は綴り字発音および中部・南部の方言では ch[tɕ]/tr[ʈ], x[s]/s[ʂ] , d/gi[z]/r[ʐ~r]のように発音し分けるが、北部方言では同じ発音となるもの。c/k/q，ng/ngh，g/gh は，後続する母音の違いによる書き分け：母音 i, ê, e が後続するとき k, ngh, gh で綴る。q は常に qu-[ku̯-] の形で現れる。

p [p]	t [t]	ch/tr [tɕ]	c/k/q [k]	[ʔ]
	th [t^h]			
b [ɓ]	d [ɗ]			
m [m]	n [n]	nh [ɲ]	ng/ngh [ŋ]	
ph [f]	x/s [s]		kh [x]	h [h]
v [v]	d/gi/r [z]		g/gh [ɣ]	
	l [l]			

3.2.3　末子音の綴り字と発音

注：末子音音素とそのまま重なるものではない（第7節の末子音音素の項参照）。
　：[˺]は無解放を表す補助記号。

p [p˺]	t [t˺]	ch [c˺]	c [k˺]
m [m]	n [n]	nh [ɲ]	ng [ŋ]
		i/y [i̯]	o [o̯] / u [u̯]

4. ベトナム語の音節

ベトナム語の音節構造は，C(w)V(C)/T すなわち頭子音＋（介音）＋母音＋（末子音）／声調　の形をしている（(　　) はある・ない両方を表す)。頭子音と介音以降の部分の結合が比較的自由なのに対し，（介音）＋母音＋(末子音)の結合には制約があり，（介音）＋母音＋（末子音）の単位は韻（Rhyme）としてまとめられる。声調は伝統的な解釈では各音節にかかる声の高低（Pitch）の変化の一定のパターンである（語例の音素表記・音声表記では声調を表記していない)。

音節構造	音素表記	音声表記	綴り字	‘意味’
CV/T	/ka/	[ka:]	cá	‘魚’
CVC/T	/kat/	[kat]	cát	‘砂’
CwV/T	/kwe/	[ku̯e:]	quê	‘故郷’
CwVC/T	/kwen/	[ku̯en]	quên	‘忘れる’

音節の長さについては，2 つの音節が同じ末子音を持つとき母音が短母音である場合も長母音である場合もその長さは等しいと考えられる。これは，単に理論上そうであると考えるのが妥当であるというだけでなく，末子音が無声閉鎖音以外の場合，音響学的な根拠もある（Pham 2003, 135-150)。さらに一般化して，どの音節も，理論上は同じ長さをもつということもできる。

音節の長さ（Pham 2003,146）より，一部書き換え：a 長母音，ă　短母音）

<table>
<tr><td>a</td><td>m</td></tr>
<tr><td>ă</td><td>m</td></tr>
</table>

5. ベトナム語の声調

5.1　声調の数と種類

前節で述べたように，ベトナム語の声調は伝統的な解釈では各音節にかかる声の高低(Pitch)の変化の一定のパターンであり，正書法でも表されているようにこれが 6 種類ある

と考えるが，Pham(2003)の研究をはじめとして，近年の音響学的研究の成果からは，ベトナム語の声調で弁別的なものは Pitch ではなく，Pitch の動き(Contour)と発声時の喉頭の素性としての Register であるとし，声調数も，末子音が無声閉鎖音 /-p, -t, -k/ の場合にのみ起こる 2 つの声調を他の 6 つと区別して全部で 8 つの声調を認めるという説もある：

8 声調説による声調の分類

ngang	sắc 1（/-p, -t, k/以外）	hỏi	sắc 2　（/-p, -t, k/のみ）
huyền	nặng 1（/-p, -t, k/以外）	ngã	nặng 2　（/-p, -t, -k/のみ）

8 声調説の根拠となる 8 声調の素性分析（Contour と　Resister）
（Pham 2003, 127 表（72）より，[obst]：[obstruent] はその声調の現れる音節の末子音が無声閉鎖音 /-p, -t, k/ であることを表す）

Tone	*ngang*	*huyen*	*sac1*	*nang1*	*hoi1*	*nga*	*sac2*	*nang2*
Contour	level	level	rise	fall	curve	curve	rise	fall
Resister		breathy		creaky	(breathy)	creaky	[obst]	breathy [obst]
(Pitch)	H	L	H	L	L	L	H	L

この 8 声調説にも十分に合理的な根拠があると考えられるが，以下では伝統的な 6 声調説に従って音声的特徴その他について述べる。

5.2　声調の音声的特徴

6 声調説による各声調の分類と特徴（(　　) 内が特徴）
注：Register *H は歴史的に無声音の頭子音を持つ音節の声調，Register *L は歴史的に有声音の頭子音を持つ音節の声調

Register *H	ngang　（中平）	hỏi　（降―昇）	sắc　（高昇）
Register *L	huyền　（低降）	ngã　（高昇＋喉頭化）	nặng　（低降＋喉頭化）

ベトナム語の声調は単に各音節についているだけでなく，形態素や語の意味の区別に関わる lexical tone と呼ばれるものである。

その数は北部方言で 6 つである。これらは，正書法でも，5 つの声調記号と無記号（「中平」の thanh ngang は声調記号を用いない）によって書き分けられる。6 つの声調のうち thanh ngã と thanh nặng の 2 つは喉頭化（声門閉鎖や緊喉 Creakiness の出現）を伴う。thanh huyền の母音は「気息」(Breathiness) を伴う。ピッチの変化と喉頭化の有無によってまとめられる声調の現れ方は次のようである： a 「中平」，à 「低降」，ả 「降―昇」，ã 「高昇＋喉頭化」，á 「高昇」，ạ 「低降＋喉頭化」。 6 つの声調のうち thanh sắc いう名前の「高

昇」の声調は，末子音が無声閉鎖音 /-p, -t, -k/で終わる場合とそうでない場合では，その上昇の角度が異なり，前者の場合の方がより急角度の上昇を示す。また，末子音が無声閉鎖音の場合の thanh nặng はそれ以外の場合の thanh nặng に特徴的に起こる「喉頭化」が見られない。さらに，末子音が無声閉鎖音の場合の声調は thanh sắc と thanh nặng の 2 つのうちのどちらかしか起こらない。（この場合の 2 つの声調を末子音が無声閉鎖音以外の場合の thanh sắc と thanh nặng と区別したものが 8 声調説である。）

5.3 声調の連続と変化の有無

声調は，単独で 1 音節を発音した場合と 2 音節以上が連続した場合とでは，同じ声調でも音声学的には単独で発音された場合とはやや異なる現れ方をする。例えば，2 音節語の中の声調の連続では，後の音節の方が前の音節よりも単独で発音されたときに比べ音声学的な変化をより強く起こす。けれども，この場合もある声調の声調素としての音韻論的な同定を妨げるものではない。ベトナム語の声調には中国語にあるような「軽声」やトーンサンディーはない。6 つの声調の声調素としての区別は，文中のどのような声調の組み合わせであっても，十分に保存されているのである。

5.4 派生語中の声調

ここで言う派生語とは，もともとの一音節語が頭子音や韻を重ねながら音韻的に二音節語に派生したと考えられるものをいう。これらの派生語の中の声調は，もとの語の声調が上の表の Register *H なら派生した音節の声調も Register *H の中の声調であり，もとの語の声調が Register *L なら派生した音節も Register *L の中の声調となる：

元の語	派生語	元の語の声調	派生語の声調
đỏ‘赤い’	đo đỏ‘ほの赤い’	hỏi (*H)	ngang – hỏi (*H - *H)
trắng‘白い’	trăng trắng‘ほの白い’	sắc(*H)	ngang – sắc(*H - *H)
chậm‘遅い’	chầm chậm‘やや遅い’	nặng(*L)	huyền – nặng(*L - *L)
đẹp‘美しい’	đèm đẹp‘少しきれいな’	nặng(*L)	huyền – nặng(*L - *L)

5.5 声調の起源と分化に関する仮説

現在 6 つもの声調をもつベトナム語であるが，歴史的には声調を持たない言語であったのが，末子音の脱落によって 3 つの声調が生まれ，その後有声頭子音の無声化によって 3 つの声調がそれぞれ 2 つに分かれ全部で 6 つとなったとする仮説（Haudricourt 1954）がある。この仮説は，その後の比較研究の成果から大枠で正しいものと考えられている。この仮説に基づき現在の声調を整理したものが次の表である。

* のついた項はすべて歴史的に以前の状態

	*末子音なし	*末子音 –s > -h	*末子音 –x > -ʔ
*無声頭子音	ngang	hỏi	sắc
*有声頭子音	huyền	ngã	nặng

参考文献

Đoàn Thiện Thuật (1980) : *Ngữ Âm Tiếng Việt*, NXB Đại Học và Trung Học Chuyên Nghiệp, Hà Nội, Việt Nam.

Haudricourt, André, G. (1954) : "De l'origine des tons en vietnamien", Journal Asiatique 242, 69-82.

Hoàng Cao Cương (1986) : "Suy nghĩ thêm về thanh điệu tiếng Việt", Ngôn ngữ số 3, 1986,19-38.

Hoàng Cao Cương (1989) : "Thanh điệu Việt qua giọng địa phương trên cứ liệu F0", Ngôn ngữ số 4, 1989, 1-17.

Mieko S Han and Kong-On Kim (1974) : "Phonetic variation of Vietnamese tones in disyllabic utterances", Journal of Phonetics(1974) 2, 223-232.

Nguyễn Văn Lợi – Jerold A. Edmonson (1997) : "Thanh điệu và chất giọng (voice quality) trong tiếng Việt hiện đại (phương ngữ Bắc bộ) : khảo sát thực nghiệm", Ngôn ngữ số 1, 1997, 1-16.

Pham, Andrea Hoa (2003) : *Vietnamese Tone*, Routledge, New York.

6. ベトナム語の母音と子音

6.1 母音

6.1.1 母音体系の概略：

ベトナム語北部方言（ハノイ方言）の母音音素は次の通りである。単母音音素：/i, e, ɛ, ɯ, ɤ, ɤ̆, a, ă, u, o, ɔ/。二重母音音素：/iə, ɯə, uə/。/i, e, ɛ/ は非円唇前舌母音，/ɯ, ɤ, ɤ̆/ は非円唇後舌母音，/a, ă/は非円唇広母音，/u, o, ɔ/ は円唇後舌母音である。

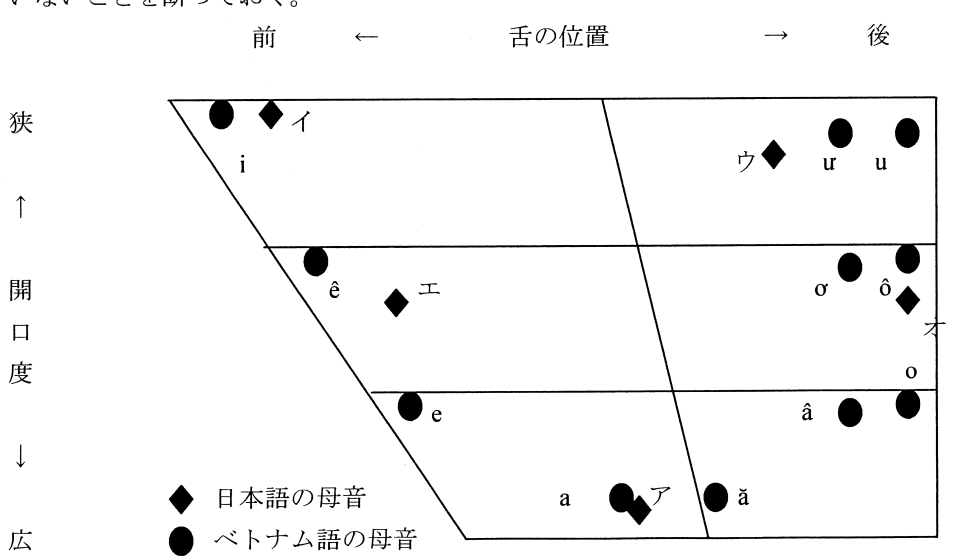
6.1.2 母音音素目録：（音声表記の箇所に声調は表記されていない）

母音音素	音声とその環境	用例
/i/	[i]	[dîː] đi ‘行く’
/e/	[e]	[zeː] dê ‘ヤギ’
/ɛ/	[ɛ] [ă] /-k/, /-ŋ/ の前	[sɛː] xe ‘車’ [săʲcˀ] sách ‘本’ [săʲŋ] xanh ‘青い・緑の’
/ɯ/	[ɯ]	[kɯː] cử ‘選ぶ’
/ɤ/	[ɤ]	[mɤː] mơ ‘夢を見る’
/ɤ̆/	[ɤ̆] 閉音節	[mɤ̆tˀ] mất ‘失う’

/a/	[a]	[mat˥] mát ‘涼しい’
/ă/	[ă]	[măt˥] mắt ‘目’
/u/	[u] [ŭ^{w}] /-k/, /-ŋ/ の前	[cuː] chú ‘父の弟’ [lŭ^{w}kp˥] lúc ‘時’ [kŭ^{w}ŋm] cung ‘弓’
/o/	[o] [ă^{w}] /-k/, /-ŋ/ の前	[koː] cố ‘努力する’ [kă^{w}kp˥] cốc ‘コップ’ [ʔă^{w}ŋm] ông ‘祖父’
/ɔ/	[ɔ] [ĕ^{w}] /-k/, /-ŋ/ の前	[kɔː] có ‘ある’ [ʔĕ^{w}kp˥] óc ‘脳’ [ʔĕ^{w}ŋm] ong ‘蜂’
/iə/	[ia̯] 開音節 [ie̯] 閉音節	[mia̯] mía ‘サトウキビ’ [mie̯n] miến ‘春雨’
/ɯə/	[ɯa̯] 開音節 [ɯɤ̯] 閉音節	[mɯa̯] mưa ‘雨’ [lɯɤ̯n] lươn ‘ウナギ’
/uə/	[ua̯] 開音節 [uo̯] 閉音節	[mua̯] mua ‘買う’ [muo̯n] muốn ‘欲する’

6.1.3 母音図による表示

注：下の母音図の中にベトナム語の母音字を伴ってプロットされたものは，調音の観点から極めて大まかな位置を示したもので，音響音声学的な分析の結果に基づくものではないないことを断っておく。



6.1.4 母音体系の特徴についての記述

6.1.4.1 母音の種類

ベトナム語の単母音は，非円唇の前舌母音が 3 つ /i, e, ɛ/，円唇の後舌母音が 3 つ /u, o, ɔ/ ，非円唇の後舌母音が 3 つ /ɯ, ɤ, ɤ̆/ ，広母音が 2 つ /a, ă/ の全部で 11 個である。音韻論的に長短のペアーをなすものは /ɤ/, /ɤ̆/ と /a/,/ă/ の二組である。二重母音は/iə/, /uə/, /ɯə/ の 3 つである。

6.1.4.2 母音の長短

音声学的な母音の長短については，いつも短く現れる /ɤ̆/[ɤ̆], /ă/[ă] 以外の単母音は，概ね長く現れる。ただし /ɯ/ は，末子音が /-t, -k, -ŋ/ を伴う場合短く現れる。末子音のない開音節ではどの短母音も長く現れる。本稿の音声表記では特に短い場合には母音の上に短いことを現す記号をつけて [ă] のように表し，とくに長い（ 開音節の場合）には [aː] のように「長」の記号をつけているが，その他の場合には「長」や「半長」の記号をつけてはいない。

6.1.4.3 母音の異音

単母音のうち，/ɛ/ は，末子音 /-k/, /-ŋ/ の前では異音 [ă] となり，わたり音 [ʲ] を介して末子音に移る。その他の環境（末子音がない場合，あるいは末子音が/-k/, /-ŋ/ 以外の場合）では [ɛ] で現れる。

/u/, /o/, /ɔ/ についても，末子音 /-k/, /-ŋ/ の前とその他の場合では現れ方が異なる。末子音 /-k/, /-ŋ/ の前では母音は短くなり唇音化して[ŭʷ], [ɤ̆ʷ], [ĕʷ] として現れる。 /o/ と /ɔ/ は母音自体の円唇性も失われる。これらは末子音 /-k/, /-ŋ/ の前での母音の変化というよりもこれらの末子音と母音 /u/, /o/, /ɔ/ が結合してできる韻（Rhyme）全体の現れ方の問題である。

6.1.4.4 閉音節のみに現れる/ɤ̆/ と /ă/

/ɤ̆/ と /ă/ は常に短い短母音で，必ず末子音を伴って現れる。これらは母音の長短と分布からそれぞれが長母音の /ɤ/, /a/ とペアーになる： /ɤ/ （長， 開音節でも現れる） － /ɤ̆/ （短，閉音節のみに現れる），/a/ （長， 開音節でも現れる） － /ă/ （短，閉音節のみに現れる）

6.1.4.5 二重母音

二重母音音素は /iə/, /uə/, /ɯə/ の 3 つであるが，その音声的な現れ方は，末子音があるない場合（開音節）には [ie̯], [uo̯], [ɯɤ̯] として現れ，末子音がない場合（閉音節）では [ia̯], [ua̯], [ɯa̯] として現れる。二重母音中の強勢の位置については，いずれも前半部が強く発音される傾向がある。 開音節では前半部が長めに発音される。

6.1.5　介音

介音とは，頭子音と母音に挟まれて現れる音のことで，介母音という場合もある。その音声的特徴は弱化した母音であり，その後の主母音のようには強く発音されず，その種類も /w/[u̯ ~ o̯] しかない。

この介音が現れるか現れないかは音節によって決まっている。音節構造上，介音を頭子音に含める解釈と韻に含める解釈があるが，前者の解釈をとれば頭子音の種類が子音結合として増え，後者の解釈をとれば韻の種類が増える。

介音を含む音節の例

介音	音声とその環境	用例
/w/	[u̯] /i/, /e/, /ɛ/, /ɤ/, /ă/, /a/, /ă/ /iə/ の前 [o̯] /ɛ/, /a/, /ă/ の前	[ku̯eː] quê ‘故郷’ [ho̯aː] hoa ‘花’

6.2　子音

6.2.1　子音体系の概略

ベトナム語の子音には，音節初頭に立つ頭子音と音節末尾に立つ末子音とがある。北部方言（ハノイ方言）の頭子音は /(p), t, tʰ, c, k, ʔ, b, d, m, n, ɲ, ŋ, f, s, x, h, v, z, ɣ, l/，末子音は /p, t, k, m, n, ŋ, j, w/ である。

6.2.2　子音音素目録（音声表記の箇所に声調は表記されていない）

6.2.2.1　頭子音音素目録

頭子音音素	音声とその環境	用例
/p/	[p] 新しい外来語のみ	[pin] pin ‘電池’
/t/	[t]	[toi̯] tôi ‘私’
/tʰ/	[tʰ]	[tʰoi̯] thôi ‘やめる’
/c/	[tɕ]	[tɕaː] cha ‘父’ [tɕaː] tra ‘調べる’
/k/	[k]	[kaː] cá ‘魚’ [ku̯eː] quê ‘故郷’
/ʔ/	[ʔ]	[ʔăn] ăn ‘食べる’
/b/	[ɓ]	[ɓaː] ba ‘3’
/d/	[ɗ]	[ɗaː] đá ‘石’
/m/	[m]	[maː] ma ‘幽霊’
/n/	[n]	[nɔː] no ‘満腹な’
/ɲ/	[ɲ]	[ɲaː] nhà ‘家’
/ŋ/	[ŋ]	[ŋaː] ngà ‘象牙’

		[ŋɛː] nghe ‘聞く’
/f/	[f]	[faː] pha ‘（お茶を）入れる’
/s/	[s]	[soi̯] xôi ‘おこわ’ [soi̯] sôi ‘沸騰した’
/x/	[x]	[xai̯] khai ‘申告する’
/h/	[h]	[hai̯] hai ‘2’
/v/	[v]	[vai̯] vai ‘肩’
/z/	[z]	[zaː] da ‘皮’ [zaː] giá ‘値段’ [zaː] ra ‘出る’
/ɣ/	[ɣ]	[ɣaː] gà ‘鶏’ [ɣiː] ghi ‘記入する’
/l/	[l]	[laː] lá ‘葉’

6.2.2.2 末子音音素目録

末子音音素	音声とその環境	用例
/p̚/	[p̚]	[sapˀ] sáp ‘蜜蝋’
/t̚/	[t̚]	[satˀ] xát ‘擦る’
/k̚/	[cˀ] /i/, /e/, /ɛ/ の後 [kˀ] [kpˀ] /u/, /o/, /ɔ/ の後	[săʲcˀ] sách ‘本’ [săkˀ] sắc ‘鋭い’ [hĕʷkpˀ] học ‘学ぶ’
/m/	[m]	[kam] cám ‘糠’
/n/	[n]	[kan] cán ‘柄’
/ŋ/	[ɲ] /i/, /e/, /ɛ/ の後 [ŋ] [ŋm] /u/, /o/, /ɔ/ の後	[kăʲɲ] cánh ‘翼’ [kaŋ] cảng ‘港’ [sĂʷŋm] sông ‘川’
/j/	[i̯] /i/, /e/, /ɛ/ 以外の母音の後	[tai̯] tai ‘耳’ [tăi̯] tay ‘手’
/w/	[u̯] /i/, /e/, /ɯ/, /ĂI/, /ă/, /iə/ の後 [o̯] /ɛ/, /a/ の後	[kău̯] cau ‘ビンロウ’ [kao̯] cao ‘高い’

6.2.3　IPA の子音一覧表による表示（p-, t-, k- などは頭子音，-p, -t, -k などは末子音）

	両唇	唇歯	歯 歯茎 後部歯茎	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	喉頭	声門
破裂音	p- ɓ- -p		t- t^h- ɗ- -t	c- (-c)	k- -k (-kp)			ʔ-
鼻音	m- -m		n- -n	ɲ- (-ɲ)	ŋ- -ŋ (–ŋm)			
ふるえ音								
はじき音								
摩擦音		f- v-	s- z-		x- ɣ-			h-
接近音				-j	-w			
側面接近音	l-							

6.2.4　子音体系の特徴についての記述

6.2.4.1　頭子音と末子音

ベトナム語の子音は，音節初頭に立つ頭子音と音節末尾に立つ末子音に分けて捉える。これは，単に音節内の位置の違いによる分類ではなく，それぞれの子音のグループの体系とその音声学的性格の相違を反映した分類である。

頭子音の無声破裂音 /p-, t-, c-, k-, ʔ-/ の特徴が子音の開放を伴う「破裂」であるのに対して，末子音の無声破裂音（閉鎖音） /-p, -t, -k/ の特徴は子音の開放を伴わない「内破」である（末子音音素目録の表中では [pˀ] のように表記）。

6.2.4.2　調音点

同じ /t/ で表している歯茎音でも，頭子音と末子音では調音点がやや異なる。頭子音の /t-/ は，やや歯よりの歯茎音であるのに対し，末子音の /-t/ は，やや硬口蓋よりの歯茎音である。

/t-/ と /t^h-/ が歯よりの歯茎音であるのに対して /d-/ と /n-/ は純粋な歯茎音である。

6.2.4.3　無気音と有気音

頭子音のうち無気音と有気音の対立があるのは /t-/ と /t^h-/ の一組のみで，他の無声破裂音は無気音である。

6.2.4.4　有声入破音

有声破裂音 /b-/, /d-/ はどちらも有声入破音 [ɓ-], [ɗ-] である。

6.2.4.5　頭子音 /p-/

頭子音音素 /p-/[p-] は新しい外来語のみに現れる。

6.2.4.6　末子音と声調

すでに述べたように末子音のうち無声閉鎖音 /-p, -t, -k/ はどれも子音の開放を伴わない内破音であるが，これらの末子音の場合，声調は thanh sắc (á) か thanh nặng (ạ) の 2 つのうちのどちらかしか現れない。

6.2.4.7　末子音の異音

/-k/ は，その前に立つ母音が /i, e, ɛ/ の場合，異音 [-cˀ] として現れ，母音が /u, o, ɔ/ の場合，唇音化した異音 [-kpˀ] として現れ，その他の母音の場合 [-kˀ] として現れる。

鼻音の末子音 /-m, -n, ŋ/ も閉鎖が開放されない。このうち /-ŋ/ は，その前に立つ母音が /i, e, ɛ/ の場合，異音 [-ɲ] として現れ，母音が /u, o, ɔ/ の場合，唇音化した異音 [-ŋm] として現れ，その他の母音の場合，異音 [-ŋ] として現れる。

6.2.4.8　半母音

半母音/-j/, /-w/は，その音声学的性格からは弱化した母音 [i̯], [u̯ ~ o̯] であるが，音節構造から末子音に含める。

6.2.5　韻 (Rhyme)

韻を介音以降の単位と捉えてその有無を表したのが下の表である。

ハノイ方言の韻（冨田 1988, 771＜表 3＞を参考にした）
注：存在する韻を綴り字で表記，声調は除く。

	/-p/	/-m/	/-t/	/-n/	/-k/	/-ŋ/	/-j/	/-w/	/-0/
/-i-/	-ip	-im	-it	-in	-ich	-inh		-iu	-i (-y)
/-wi-/			-uyt (-uit)		-uych	-uynh			-uy (-ui)
/-e-/	-êp	-êm	-êt	-ên	-êch	-ênh		-êu	-ê
/-we-/			-uêt	-uên	-uêch	-uênh			-uê
/-ɛ-/	-ep	-em	-et	-en	-ach	-anh		-eo	-e
/-wɛ-/			-oet	-oen	-oach	-oanh		-oeo	-oe

/-ɯ-/			-ưt		-ưc	-ưng	-ưi	-ưu	-ư
/-ɤ-/	-ơp	-ơm	-ơt	-ơn			-ơi		-ơ
/-wɤ-/									-uơ
/-ă-/	-âp	-âm	-ât	-ân	-âc	-âng	-ây	-âu	
/-wă-/			-uât	-uân	-uâc*	-uâng	-uây		
/-a-/	-ap	-am	-at	-an	-ac	-ang	-ai	-ao	-a
/-wa-/		-oam	-oat	-oan	-oac	-oang	-oai		-oa
/-ă-/	-ăp	-ăm	-ăt	-ăn	-ăc	-ăng	-ay	-au	
/-wă-/		-oăm	-oăt	-oăn	-oăc	-oăng	-oay		
/-u-/	-up	-um	-ut	-un	-uc	-ung	-ui		-u
/-o-/	-ôp	-ôm	-ôt	-ôn	-ôc	-ông	-ôi		-ô
/-ɔ-/	-op	-om	-ot	-on	-oc	-ong	-oi		-o
/-iə-/	-iêp	-iêm yêm	-iêt yêt	-iên yên	-iêc	-iêng yêng		-iêu yêu	-ia
/-wiə-/			-uyêt	-uyên					-uya
/-ɯə-/	-ươp	-ươm	-ươt	-ươn	-ươc	-ương	-ươi	-ươu	-ưa
/-uə-/		-uôm	-uôt	-uôn	-uôc	-uông	-uôi		-ua

＊-uâc という韻に相当する発音は，実際にはこの綴り字では書かれず quốc ＜「国」を表す漢語成分＞の中の韻 –uôc の変異音として現れる。

参考文献

冨田健二（1988）「ヴェトナム語」『言語学大辞典　第1巻』三省堂, 759-778.
Đoàn Thiện Thuật (1980) : *Ngữ Âm Tiếng Việt*, NXB Đại Học và Trung Học Chuyên Nghiệp, Hà Nội, Việt Nam.

7. ベトナム語のイントネーション

ベトナム語のイントネーションは，ベトナム語が各音節に声調を有する声調言語であることから，声調を持たない言語に比べてやや複雑な様相を呈する。まず，どのようなイントネーションの場合も，各音節の声調は基本的にその声調の特徴を保ちながら発音される。つまり，イントネーションが声調を音韻論的に変化させることはない。イントネーションの種類を発話の意図（話し手の心的態度）と対応させていくつかのパターンに分類することは難しいが，「問い返し」，「懐疑，驚き」のイントネーションについては，文末に向かうほど上昇気味となる特徴がある。

先行研究の中には，発話の意図（話し手の心的態度）の他に文の形式などもイントネーションを決定する要因となることも論じられているが（Thompson1987, 42-43），ここでは，話し手の心的態度を反映する文末のイントネーションに限って例を示すにとどめる。

日本語の返事で「はい」(そうです) と答えるときの「はい」と「はい？」(なんですか？) と問い返すときの「はい？」でイントネーションが異なるように，ベトナム語でも「返事」と「問い返し」の間で同じ語句 (Dạ) にかかるイントネーションが異なる。

	[イントネーション]		
Dạ.	[非上昇調]	(返事)	「はい」
Dạ ?	[上昇調]	(問い返し)	「はい？」

上で [上昇調] としたイントネーションは dạ という語の声調 (低降＋喉頭化) の特徴を基本的に変えることなくかかるもので，相対的に [非上昇調] よりもピッチが高く，後半に向かってやや上昇気味という現れ方となる。同様のことが次の例にも言える。

	[イントネーション]		
Thế à ?	[非上昇調]	(懐疑，驚きなし)	「そうなの」
Thế à ?	[上昇調]	(強い懐疑，驚き)	「そうなの？」

上の例の [上昇調] のイントネーションは，文末の語 à の持つ声調 (低降) は保持されながらかかり，相対的に高めのピッチで文末に向かって上昇気味に現れる。

参考文献

Thompson, Laurence C. (1987) : *A Vietnamese Reference Grammar*, Mon-Khmer Studies XIII-XIV University of Hawaii Press.

8. ベトナム語音声の多様性

ベトナム語は 1 音節 1 形態素 (1 語) を基本とするいわゆる孤立語であり，このことはベトナム語の音韻および音声の現れ方の基本となっている。音節構造は，頭子音＋(介音)＋母音＋(末子音) ／声調と比較的単純である。介音と末子音はないこともある。

ベトナム語は lexical tone をもつ声調言語である。声調の数はハノイ方言 (北部方言) で 6 つ，サイゴン方言 (南部方言) で 5 つ，フエなどの中部方言でも 5 つであり，それらの声調は音韻論的には方言間で対応関係がありつつも，それぞれの声調の音声的な現れ方は方言によってかなりの相異がある。

ベトナム語の母音はハノイ方言 (北部方言) に限って言えば，単母音が 11 個，二重母音が 3 つで，単母音のうち音韻論的に長短の区別でペアーとなるのは 2 組のみである。それぞれの組の短母音は必ず末子音を伴って現れる母音，つまり閉音節にしか現れない母音である。

子音体系の特徴については，次のようなことが挙げられる。まず，音節初頭に立つ頭子

音と音節末尾に立つ末子音とではその体系と音声学的性格が異なる。頭子音については，有声の入破音が 2 つ（ /b-/[ɓ-], /d-/[ɗ-] ）ある。無気音と有気音の対立が 1 組（ /t-/, /t^h-/ ）しかない。この 2 つを除く他の無声破裂音は無気音である。無声と有声の軟口蓋摩擦音 /x-/, /ɣ-/ がある。末子音については，その種類が，無声閉鎖音 /-p/，/-t/，/-k/，鼻音 /-m/，/-n/，/-ŋ/ および半母音/-j/，/-w/と限られている。この中，無声閉鎖音は子音の開放を伴わない内破音である。

ベトナム語の方言は多様であるが，その中，本稿で論じたハノイ方言（北部方言）のほかに，南部のサイゴン方言（ホーチミン市を中心に話される方言）もきわめて優勢である。南部方言では北部方言の 6 声調の中，thanh hỏi と thanh ngã の 2 つの声調が 1 つとなって 5 声調になり，北部方言と対応するそれぞれの声調の調値も異なる。南部方言では，北部方言で区別されない頭子音が区別される一方，介音以降の韻の現れ方も北部方言とは異なり，一定の対応関係を持ちながらもその音声を聞いた印象はかなり異なる。